王子グループ統合報告書 2024 王子グループとは 目指す姿とロードマップ 価値創造ストーリー 事業別価値創造戦略 人財戦略 グリーンイノベーション 環境・社会課題への対応 ガバナンス データセクション

王子グループのロジックツリー

価値創造プロセス

各経営資本と強み・課題

コア・コンピタンス 各ステークホルダーとの価値協創 サステナビリティ重要課題

# サステナビリティ重要課題 -特定プロセスと定義-

# ■ サステナビリティ重要課題の特定プロセス

王子グループは、刻々と変化する社会動向を踏まえ、事業における機会とリスクを洗い出し、2019年 に以下のプロセスでサステナビリティ重要課題を特定しました。

2023年には、定義および構成要素を新たに特定し、人的資本の強化に対応するKPIを見直しました。 また2024年には、生物多様性保全に対応するKPIを追加しました。

### メガトレンド (P.17⊟)

#### 気候変動のリスク (P.60 □)

### リスクと機会の 洗い出し

事業運営、サステナビリティの観点からリスクと機会を洗い出しました。 リスクと機会(P.16 □)、事業機会とリスク(P.34-43 □)、 リスクマネジメント (P.93-95 □)

### コア・コンピタンスの 特定

森林資源を核とした事業展開を支える、5つのコア・コンピタンスを特定しました。 コア・コンピタンス (P.27 □)

## 候補の抽出

SDGs、グローバルリスク、ESG評価機関からの評価内容、当社グループが認識 している重要項目、目指す姿、ステークホルダーとの対話などから、網羅的に課題 を抽出しました。

#### 外部機関との 評価・分析の実施

各課題について、社会にとっての重要度、事業にとっての重要度の両軸で評価を行い ました。外部機関からの意見も取り入れ、課題の絞り込みを実施し、整理しました。

# 経営会議での 妥当性の評価・承認

特定したサステナビリティ重要課題について、経営会議にて妥当性の確認を行い、 承認を取得しました。サステナビリティ重要課題は、社会の環境変化や新規課題の 出現などを考慮する必要があるため、毎年、サステナビリティ推進委員会にて見直し の必要を議論していきます。

## サステナビリティ重要課題

# ■ サステナビリティ重要課題と定義

サステナビリティ重要課題	定義
気候変動の緩和・適応	サプライチェーンでのGHG排出削減、森林によるCO₂吸収・固定の 推進を図り、気候変動の緩和に貢献する。
持続可能な森林経営と 生物多様性の保全	保有・管理する森林において、環境および地域社会に配慮した持続 可能な森林経営を実践し森林資源を活用するとともに、生物多様性 保全をはじめとした森林の多面的機能を発揮する。
資源の循環的利用	資源枯渇を防ぐため、紙および水を貴重な再利用可能な資源と捉え、 循環的な利用を図る。
責任ある原材料調達	あらゆる原材料を調達するためのサプライチェーンにおいて、環境および人権を含む社会に関する課題を看過せず、責任をもって対処する。
環境負荷の低減	製造過程において、周辺地域への環境負荷を最小限にするために、 廃棄物の削減、排水、排気の浄化を推進する。
人権の尊重	あらゆる事業活動における人権侵害を許容しない。
人的資本の強化	持続的成長に必要となる多様な人財 (人的資本) を確保・育成する。 全ての人財が能力を最大限に発揮でき、働きやすい環境を整備する。
職場の安全衛生の確保	全ての従業員および関係者の安全衛生を確保する。
安全安心な製品の供給	世界中に安全安心な製品を供給する。

王子グループとは 目指す姿とロードマップ

価値創造ストーリー

事業別価値創造戦略

人財戦略

グリーンイノベーション

環境・社会課題への対応

ガバナンス

データセクション

王子グループのロジックツリー 価値創造プロセス 各経営資本と強み・課題

コア・コンピタンス 各ステークホルダーとの価値協創 **サステナビリティ重要課題** 

# サステナビリティ重要課題 -KPI-

サステナビリティ重要課題	構成要素	KPI (重要業績評価指標) (特に記載のある場合を除き、2030年度)	現状数値*1	主な取組	社会に提供する価値	対応するSDGs
気候変動の緩和・適応	<ul> <li>GHG排出量の削減 (Scope1、Scope2)</li> <li>森林によるCO<sub>2</sub>吸収・固定</li> <li>サプライヤー等との協働による GHG排出量削減 (Scope3など)</li> <li>再生可能エネルギーの利用拡大</li> <li>エネルギーの効率的な利用</li> </ul>	<ul><li>● GHG排出量2018年度対比 70%以上の削減 (Scope1、Scope2)</li><li>・ GHG排出量削減:20%</li><li>・ 森林によるCO₂純吸収量:50%</li></ul>	• 28.1%削減 • 12.6% • 15.5%	<ul> <li>生産効率向上、省エネルギー、再生可能燃料・廃棄物燃料の活用によるGHG排出量削減</li> <li>持続可能な森林経営によるCO<sub>2</sub>の吸収・固定</li> <li>化石燃料代替としての非化石燃料・バイオマス燃料の利用拡大</li> <li>バイオマス熱電事業の展開</li> <li>環境配慮型製品の開発</li> </ul>	<ul><li>気候変動の緩和</li><li>再生可能エネルギーの割合増加</li><li>エネルギー効率の向上</li><li>環境に配慮した技術の向上</li></ul>	7 (1844-1840) 12 (1888)
		● CO₂固定量 <sup>※2</sup> の拡大 1億7,000万トン以上 (計算値)	• 1 億2,456万トン			7.2,7.3,7.a 12.2 9 113 12 12 13 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14
		<ul><li>● 石炭使用量の低減等により、再生可能 エネルギー利用率60%以上の実現</li></ul>	• 56.4%			
		● 5年平均エネルギー消費原単位 年1%以上の改善	• 5.0%削減 (2019~2023年度)			13.3
● 森林資源の活用 持続可能な森林経営と ● 生物多様性と生態系	<ul><li>森林の適切な管理と保全</li><li>森林資源の活用</li><li>生物多様性と生態系の保全・推進</li><li>地域コミュニティとの関係構築</li></ul>	● 海外の森林認証取得率 <sup>※3</sup> 向上 (国内は100%維持)	• 国内: 100%、 海外: 97%	<ul> <li>「持続可能な森林管理方針?」に基づいた森林経営</li> <li>森林の多面的機能の維持・拡大</li> <li>植林の推進</li> <li>自然の再生・回復</li> </ul>	<ul> <li>森林の多面的機能・生態系サービスの提供</li> <li>生物多様性と生態系の保全</li> <li>雇用の創出</li> <li>就労・教育・医療支援</li> </ul>	O SARVIVO.
		● 海外植林地400千haへ拡大	<ul><li>295千ha (ウルグアイ含む)</li></ul>			6 season 14 soon
		● CENIBRAが所有地内で再生した自然林の面積**4 2024年から2033年までの期間に3,000ha以上	• 2024年に開始			6.6 14.2 8 *****
		<ul> <li>● CENIBRAが所有地内で植栽した郷土樹種の本数<sup>※5</sup></li> <li>2024年から2033年までの期間に50万本以上</li> </ul>	• 2024年に開始			
		● CENIBRAが所有地外で設置した緑の回廊の面積 <sup>*6</sup> 2024年から2033年までの期間に3,500ha以上	• 2024年に開始			15.4,15.5,15.c
<ul><li>古紙利用の促進</li><li>水リスクの低減</li><li>(P.71-73 ())</li></ul>		<ul><li>古紙利用率<sup>※7</sup> (国内):70%以上</li></ul>	• 68.3%	紙のリサイクル (古紙利用率の向上)     取水量削減     水処理事業の国内外への展開	<ul><li>気候変動の緩和</li><li>資源の枯渇防止</li><li>廃棄物削減</li><li>水不足への貢献</li><li>安全な水の供給</li></ul>	6 senous  14 sono  TO
		● 取水原単位 2018年度対比6%以上の削減	• 14.2%削減			12.4,12.5, 15.1,15.2,15.3 12.6 15.4,15.5,15.6
	• サプライチェーン上の人権配慮	● 主要サプライヤー <sup>※8</sup> の サステナビリティ調査実施100%	• 100% (2023年度、フォローアッ ブ調査)	● 「王子グループ・サプライチェーン・サス テナビリティ行動指針②」 および「木材原料の調達指針②」 による、環境や社会に配慮したCSR調達推進	▼貝はのる工圧用貝が応	8 energy 15 moderate 15 est 3 est 3 est 4 est 4 est 4 est 5 est 3 est 5 est 3 est 5
● 法令・社会規範の遵守と 公正な取引 (P.74-75⊡)		<ul><li>「木材原料の調達指針」に基づく</li><li>トレーサビリティ調査の実施100%</li></ul>	• 100%			12:555
3117	<ul><li>廃棄物の有効利用</li><li>排水の浄化</li><li>排気の浄化</li></ul>	<ul> <li>廃棄物有効利用率<sup>※9</sup>の向上</li> <li>国内:99%以上、海外:95%以上</li> </ul>	• 国内: 99.0%、 海外: 86.4%			3 TATERALE 11 GARMANA 17 SETTLES   17 SETLES   18 SETL
		<ul><li>排水中負荷物質排出原単位 2018年度対比15%の削減</li></ul>	● BOD: 40.7%削減 ● COD: 9.6%削減 ● SS: 29.4%削減			3.9 11.6 17.7,17.
		● 排気中SOx排出原単位 2018年度対比15%の削減	• 27.8%削減			6.1,6.3, 14.1,14.2, 6.4 14.3

王子グループとは 目指す姿とロードマップ

価値創造ストーリー

事業別価値創造戦略

人財戦略

グリーンイノベーション

環境・社会課題への対応

ガバナンス

データセクション

王子グループのロジックツリー 価値創造プロセス 各経営資本と強み・課題 コア・コンピタンス 各ステークホルダーとの価値協創 **サステナビリティ重要課題** 

サステナビリティ重要課題	構成要素	KPI (重要業績評価指標) (特に記載のある場合を除き、2030年度)	現状数値*1	主な取組	社会に提供する価値	対応するSDGs
人権の尊重 ( <u>P.76-77</u> )	全ての事業活動における人権配慮     職場における人権配慮	●対象者への人権教育・研修の実施100%	• 94.3% (2024年3月~5月実施、総 受講者数2,547名)	●「王子グループ企業行動/憲章・行動/規範で」、「王子グループ人権方針で」の運用 ● 内部監査の実施、内部通報制度の運用 ● 社内研修等によるコンプライアンスおよび人権に対する意識の醸成 ● サブライヤーの人権尊重等のリスク評価 ● 人権デュー・ディリジェンスの実施	● 人権尊重	5.1,5.4, 5.5,5.c 10.2,10.3, 5.5,5.c 10.4
<ul><li>従業員の</li><li>インクルー</li></ul>	<ul><li>ワークライフマネジメントの向上</li><li>従業員のスキル向上</li><li>インクルージョン&amp;ダイバーシティ</li><li>コンプライアンス意識の強化</li></ul>	● 総労働時間 1,850時間以内 (国内本社地区26社)	• 1,835時間	<ul><li> 人財戦略/人財育成</li><li> 働き方改革の推進</li><li> ダイバーシティ推進</li></ul>	<ul><li>多様な人財の活躍</li><li>イノベーションの実現</li><li>生産性の向上</li></ul>	
		<ul><li>男性の育児休業等取得率100% (国内16社<sup>※10</sup>)</li></ul>	• 92.5%			5 ************************************
		● 女性管理職比率 5.5%以上 (国内16社**10、2025年3月末)	• 3.9%			5.1,5.4,5.5,5.c
		● 新卒採用女性総合職比率*1130%以上	• 40.6% (2024年度入社)			8.2,8.5,8.8
		<ul> <li>● 障がい者雇用率 2.5%以上 (国内83社<sup>※10</sup>、2024年6月)</li> </ul>	<ul> <li>国内グルーブ適用 6社*10:2.48%、 国内83社*10:2.19% (2024年6月)</li> </ul>			10.2;10.3
		コンプライアンス会議参加率100% (王子ホールディングスおよび国内全子会社)	• 98.8% (2023年度下期)			
<ul><li>従業員の健康促進</li></ul>	● 死亡・重篤災害 <sup>*12</sup> ゼロ (毎年度)	• 2件 (2023年1月1日~ 12月31日)	<ul><li>・安全衛生管理体制の確立と安全衛生活動の推進</li><li>・機械・設備、作業等における安全確保の徹底</li></ul>	<ul><li>安全と健康</li></ul>	8 iiiii <b>111</b>	
職場の 安全衛生の確保 ( <u>P.78-79日</u> )	● 労働災害の防止	● 労働災害度数率 <sup>※10</sup> 2018年 (0.89) 対比50%削減	• 1.20 (2023年1月1日~ 12月31日)	<ul><li>安全教育の推進(VRによる危険体感教育の展開等)</li><li>従業員の心身の健康促進</li><li>快適な職場環境の整備</li></ul>	▼火土℃降原	8.8
安全安心な製品の供給(サステナビリティレポート団)	<ul><li>製品の安定供給</li><li>製品品質の確保</li></ul>	● 製造物責任事故 0件 (毎年度)	• 0件	● 自社製品の安定供給 ● 関連法規遵守およびそれを上回る自主管理値に従った安全な品質設計・管理 ● お客様への原材料(薬品、資材)の安全性情報の提供 ● FSC®認証製品(FSC®C014119他)の供給	● 安全安心な製品提供 ● 環境負荷の低減 ● 開発途上国への環境に配 慮した技術普及	9.4,9,b 17.7 12.4,12.6

- ※1 集計期間:記載のある場合を除き、2023年4月~2024年3月、または2024年3月31日時点。対象範囲:記載のある場合を除き、国内外の連結子会社
- ※2 CO<sub>2</sub>固定量(CO<sub>2</sub>トン)生産林:各年度未残存蓄積量×パイオマス拡大係数×容積重×(1+地下/地上比)×炭素率×CO<sub>2</sub>換算係数 環境保全林:各年度未残存面積×自然林の地上パイオマス×(1+地下/地上比)×炭素率×CO<sub>2</sub>換算係数
- ※3 森林認証取得率: [海外] 自社所有生産林における面積比率、[国内] 分収林を除く社有林における面積比率
- ※4 風倒、火災等で失われた自然林を再生するために植栽等を行った面積
- ※5 所有する自然林内で植栽した本数
- ※6 土地所有者と連携し、分断された自然林の間の荒廃地の植生回復を促し、野生動物が行き来できるように、フェンスで囲って保護した面積

- ※7 古紙利用率=古紙消費量÷全繊維原料消費量(古紙、木材パルプ、その他繊維原料の消費量合計)
- ※8 取引額上位75%のサプライヤー
- ※9 廃棄物有効利用率=(廃棄物発生量-埋立量)÷廃棄物発生量×100
- ※10 算出方法P98参照
- ※11 新卒採用女性総合職比率:王子マネジメントオフィス一括採用(スポーツ採用者を除く)
- ※12 重篤災害:王子グループでは、労働者災害補償保険法施行規則 別表第一障がい等級表の第三級以上の災害を重篤災害としています。